

機能水ニュースレター No. 104

2021年11月10日発行 一般財団法人機能水研究振興財団 編集担当 堀田国元・本間茂・中藤誉子

協力：日本機能水学会・(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522

E-mail: kinousui-zaidan@fwf.or.jp ホームページ: <http://www.fwf.or.jp>

事務連絡：「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」	1
お知らせ：食品ニューテクノロジーセミナー	2
日本電解水協会第13回電解水セミナー	2
第45回電解技術討論会	2
生物安全実践講習会（報告とお知らせ）	3
報告：ATP・迅速検査研究会 定例講演会	3
日本機能水学会第19回学術大会	4

機能水関連カレンダー

食品ニューテクノロジーセミナー	2021年11月12日(金)	食情報館(東京)
第45回電解技術討論会	2021年12月9～10日	オンライン
生物安全実践講習会実践コースB	2022年1月27～28日	iMEP(滋賀県草津市)
第84回ウォーター研究会	2022年2月5日(土)	日比谷図書文化館(東京)

<事務連絡「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」>

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部より令和3年10月21日付で、標記の事務連絡が都道府県等の衛生主管(部)局宛に発出されました(その一部を下に貼付)。それによると、「消毒効果を有する濃度の次亜塩素酸水を吸い込むことは推奨できない」ことが基本で、「個々の製品の使用に当たってはその安全性情報や使用上の注意事項等を守って適切に使用すること」としています。また、Q & A において次亜塩素酸水の空間噴霧に関しては使用を妨げるものではないが、消費者において安全性情報や使用上の注意事項を確認し、判断いただくとしています。厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」の「5. (補論)空間噴霧について」の記載内容に変更はありません(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html)。

したがって、消費者に適切な科学的な安全情報の提供がメーカーや弊社にとって重要な責務として求められます(堀田)。

厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」の「5. (補論)空間噴霧について」¹⁾の【参考情報3】において、「消毒効果を有する濃度の次亜塩素酸水を吸い込むことは、推奨できません。」と記載しております。

これは、消毒剤や、その他ウイルスの量を減少させる物質を空間噴霧して使用することは、眼や皮膚への付着や吸入による健康影響のおそれがあることから推奨しない、という趣旨ですので、個々の製品の使用に当たっては、その安全性情報や使用上の注意事項等を守って適切に使用してください。

なお、同ホームページの「5. (補論)空間噴霧について」における「消毒剤や、その他ウイルスの量を減少させる物質」に該当する製品が、健康影響のおそれがあるものかどうかについては、各製品の安全性情報や使用上の注意事項等を確認いただき、消費者に御判断いただくものと考えております。

<食品ニューテクノロジー研究会セミナー開催案内>

「HACCP時代の衛生管理と次亜塩素酸水」 ハイブリッド講演（リアルとオンライン）

開催日時： 2021年11月12日（金）13:30～16:00（予定）
会場： 食情報館（東京都中央区八丁堀2-14-4、ヤブ原ビル日本食糧新聞社内）
アクセス： 地下鉄日比谷線八丁堀（A5出口2分）、銀座線日本橋（B1出口8分）、JR東京駅八重洲中央口12分
コーディネーター： 堀田国元（機能水研究振興財団）

法制化された「HACCPに沿った衛生管理」は、本年6月1日から原則としてすべての食品等事業者による実施が義務付けられた。そうした中、食品の調理加工現場の衛生管理において活用されている次亜塩素酸水（食品添加物殺菌料）は、国主導の評価において新型コロナウイルス不活化効果が認められ、コロナリスクの軽減も含めて良好な現場環境に寄与していると思われる。以上を踏まえて、次亜塩素酸水をめぐる動向と、HACCP時代の食品調理加工現場における次亜塩素酸水の効果的な活用法、ならびに実用化されつつある連続的リアルタイム有効塩素濃度測定装置について以下の講演が行われる。

1. 食品添加物殺菌料をめぐる課題と進歩：
堀田国元 一般財団法人機能水研究振興財団
2. HACCP時代における次亜塩素酸水の応用～食品に潜む生物的危害対策～
金盛 幹昌 一般社団法人 日本電解水協会
3. ダイヤモンド（BDD）電極を用いる連続式リアルタイム有効塩素濃度測定装置の開発
宮村和宏（株）堀場アドバンスドテクノ

* 問合せ先：日本食糧新聞社事業本部、電話 03-3537-1310、FAX03・3537・1071、<http://bit.ly/Ke3If3>

* 機能水関係で参加を希望される方は、堀田国元（khotta@fwf.or.jp）へ至急ご連絡ください。

<日本電解水協会第13回電解水セミナー延期のお知らせ>

2021年11月18日（木）に品川区立総合区民会館（きゅりあん）で開催予定でしたが、延期となりました。

<第45回電解技術討論会－ソーダ工業技術討論会－開催案内>

主催・共催： 電気化学会電解科学技術委員会・水素エネルギー協会
協賛： 電気化学会溶融塩委員会、日本ソーダ工業会、日本機能水学会
世話人： 盛満 正嗣（同志社大学）、西尾 拓久央（AGC株式会社）

開催期日： 12月9日（木）～12月10日（金） オンライン開催（Live 動画配信と質疑応答） **2021 合同 Web 討論会**

討論会主題「脱炭素時代の電解技術」： 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、GHGの排出抑制は明確な数値目標が全産業にわたって求められる状況となり、電力消費が必須である電解技術ではプロセスのさらなる効率化や新たな技術開発が目標の達成に必要です。このような脱炭素の時代へ向けた最新の研究開発成果に関するご講演を含む、ソーダ電解、水電解、溶融塩電解、機能水、有機電解、アノード処理、金属精錬、水素エネルギー、めっき技術、電解殺菌、廃水処理、排ガス処理など幅広い分野からの研究発表が行われます。

☆特別講演 1.「標準化と市場形成」： 経済産業省 基準認証戦略室 加藤 彰二 室長補佐
2.「湿式プロセスを利用した粒子径制御・複合化・集積化事例の紹介」：
同志社大学 理工学研究科 白川 善幸 教授

◎連絡先： 横浜国立大学 大学院 工学研究院 機能の創生部門 松澤幸一
TEL 045-339-4022, FAX 045-339-4024 <https://denkai.electrochem.jp/event/files/45touron.html>

<生物安全実践講習会：報告とお知らせ>

(公財)ルイ・パストゥール医学研究センターと(一財)機能水研究振興財団の共同公益事業である生物安全実践講習会は、10月13日(水)に第3回基盤コースを全国和牛協会ホール(京都市)において実施した。また、第1回実践コースBを年明け1月27・28日の2日間、開催する予定で準備を進めている。

なお、受講対象者は、「基盤コース」は病原体の基礎知識を必要とする人たち、「実践コースB」は病原体あるいは病原体を含む材料を能動的に取り扱う方、あるいはそのような方々の教育・指導に関わる人たちである。

◎第3回基盤コース報告

コロナ禍により2度の延期を重ねていたが、第5波が沈静化し始めたことにより、できる限りの感染対策(検温、手指消毒、三密回避、CO2濃度チェックなど)の下に実施され、22名が受講した。座学として、感染症概論、病原体概論(I細菌、IIウイルス)および感染防御概論(I感染経路対策、II殺菌消毒)が行われた。また、特別講演として、長谷川学先生(京都府保健福祉局長;前厚労省新型コロナ対策本部医療班副班長)による「新型コロナ感染症に対する自治体の対応と今後のパンデミック対策について」が行われた。続いて、衛生的な手洗い、ATPふき取り検査、生菌の顕微鏡観察、個人防護具(マスク)着脱に関する解説と実習が行われた。



◎第1回実践コースBのお知らせ

病原体あるいは病原体を含む材料を能動的に取り扱う方、あるいはそのような方々の教育・指導に関わる人たちを対象とする生物安全実践講習会第1回実践コースBが下記の要領で開催される。受講修了後に理解度確認・認定試験を行う。

期日：2022年(令和4年)1月27・28日(木・金) 2日間(終日)

会場：医療研修施設 iMEP (ニプロ社) 滋賀県草津市(JR湖西線京都駅より新快速で17分南草津駅下車徒歩3分)

募集：11月25日開始、定員32名。応募はルイ・パストゥール医学研究センターHPから(問合せ先、homma@fwf.or.jp)

内容：著名専門家による座学(感染症概論、ウイルスとワクチン、医薬品製造安全対策/GMP、遺伝子組換え生物等の利用と安全対策ほか)、座学と実習(遺伝子関連検査と安全対策、BSC・クリーンベンチ・個人防護具の取扱い、病原体の梱包・輸送の安全対策)を実施。また、厚労省感染症対策担当官による特別講演が行われる。

<ATP・迅速検査研究会第44回定例講演会>

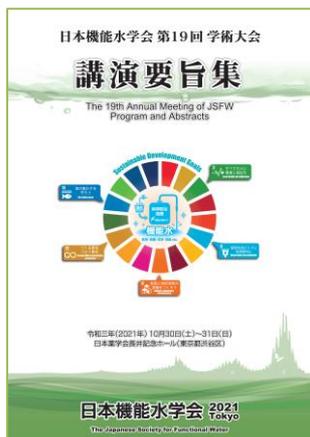
令和3年9月28日午後、食情報館(日本食糧新聞社内)を起点として、「公衆衛生・食品衛生で活躍する迅速検査と次亜塩素酸水」をテーマに下記の講演がハイブリッド(来場とオンライン)で行われた。参加者は、来場者13名、WEB 24名であった。今回の講演会は、ATP・迅速検査研究会と機能水研究振興財団が本年度より相互に特別会員となったことを契機に連携を進めていくことを考慮してプログラムされた。

1. 公衆衛生・食品衛生の歴史に学ぶ：伊藤武(一般財団法人東京顕微鏡院学術顧問・ATP・迅速検査研究会会長)
2. 次亜塩素酸水の発展を取り巻く光と影：標準化に取り組む意義とは：堀田国元(機能水研究振興財団理事長)
3. 賛助会員プレゼンテーション：フォス・ジャパン株式会社
4. ATP・迅速検査研究会活動報告：手洗い評価におけるATP検査・微生物検査の手法構築に向けた検討について
5. 食品衛生におけるふき取り検査・迅速検査の有用性と可能性：川崎晋(農研機構*食品研究部門食品流通・安全研究領域上級研究員、ATP・迅速検査研究会)

＜日本機能水学会第 19 回学術大会報告＞

2021 年 10 月 30・31 日の 2 日間、日本薬学会長井記念ホール(東京澁谷)を起点会場として、「機能水が拓く新時代」をメインテーマに今田千秋大会長(東京海洋大学学術研究院教授)のもと日本機能水学会第 19 回学術大会が開催された。ハイブリッド形式(来場とWEB)で行われ、参加者は来場 90 余名、WEB70 余名であった。セッションとして、機能水関連団体「学術的活動と展開」、海洋深層水(大会長セッション)、理化学・技術、飲用機能水、ミニシンポジウム「次亜塩素酸水による空間浄化を科学する」、食品衛生および一般演題がアレンジされた。いずれも魅力的な内容で、with コロナとコロナ以降を展望して機能水研究のあり方や方向性が明確になってきたことが感じられた。講演要旨集の表紙(下掲)のように、大会長講演や機能水研究振興財団の活動報告において SDGs への志向が示され、さらに更家悠介サラヤ(株)社長による特別講演は SDGs への志向を鼓舞する内容であった。次亜塩素酸水に関連して、高木弘隆先生(感染研)の教育講演とその後のミニシンポジウムを通じて喫緊の課題と展望が浮き彫りになったと感じられた。一方、飲用機能水に関連する新たな研究成果情報として、白金修飾ダイヤモンド電極による溶液中の水素濃度のリアルタイム測定(慶応義塾大学理工学部 栄長泰明先生)と、水素水の飲用による水素の体内動態画像(慶応義塾大学医学部 佐野元昭先生)は耳目を集めた。

第 20 回学術大会は、岩澤篤郎先生(国際医療保健大学教授)を大会長として令和 4 年(2022 年)10 月 1~2 日の 2 日間、日本薬学会長井記念ホール(東京澁谷)において開催されることに決まった。コロナ禍のために今回は海外から研究者を招待できなかったが、第 20 回大会は国際的な学術大会になることが期待される。



アルカリイオン水の口腔内中和効果に関する論文が J. Oral Science にオンライン掲載されました。

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/josnusd/advpub/0/_contents/-char/en

The neutralizing effect of mouth rinsing with alkaline electrolyzed water on different regions of the oral cavity acidified by acidic beverages

Keiko Kondo, Ryoko Kanenaga, Yoshinori Tanaka, Kunimoto Hotta, Shinich ...

Type: research-article Article ID: 21-0262 Published: 2021 [Advance publication] Released: November 10, 2021